

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
常総市	石下東部（館方・曲田）	令和4年3月4日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	116.46ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	109.44ha
③地区内における39才以上の農業者の耕作面積の合計	109.29ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	76.83ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	
④地区内において今後中心経営体を引き受ける意向のある耕作面積の合計	8.70ha
(備考)	

注1：③の「39才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。
 注2：④の面積は、下記の「(参考) 中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。
 注3：アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。
 注4：プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

この地区の北部の館方地区での東部圃場優良農地では自作が多く集約はあまり進んでいない。半面、集落南部の陸田では集約が進んでいる。南部の曲田地区では土地改良を行ってから50年以上経っており、圃地面積が比較的小さい。耕作も自作や相対での耕作が多いが、アンケートのよる農地を貸したい意向の農地は大方担い手農家が耕作している。一方東部圃場の優良農地については北部同様集約は進んでいない。集約出来ればよいが、親戚関係とかが絡み入り乱れがある。人間関係の問題もあるし、土地をとられてしまうと思っている人もいる。水管理も集約できれば容易となる筆数が多ければできない。

注：「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

この地区には6人の中心経営体の農家がおり北部で、3名、南部で6名が対応している。北部の陸田地帯はほぼ集約が整っているが、優良農地の水田地帯では耕作地が分散していることから自作農地や相対耕作地の集約を図っていく。南部では、担い手の耕作している箇所が、入り乱れていることから、整理しながら、集約化を目指す。

注1：中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。
 注2：「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針（任意記載事項）

(農地の貸付け等の意向)
曲田地区の貸付意向は多かったが、すでに担い手農家が借り受け、耕作している。水田地帯の耕地が、自作や相対耕が多いが、年齢構成も高くなっており、今後耕作ができなくなる圃場が多くなると思われる。
(農地中間管理機構の活用方針)
北部の館方地区では、中間管理機構の利用がないことから、趣旨を周知し、利用促進を進めていく。南部の曲田地区では水田地帯での中間管理機構の利用は少ない。自作、相対耕が多いことから今後、耕作が、困難になってしまった農家の農地等を優先的に中間管理機構を利用し集積を進めていく。
(基盤整備への取組方針)